

雜 稿

新に發見されたカトリック教の

宗論關係の二史料

文學博士 桑 原 隲 藏

昨冬清室善後委員會が康熙硃批舊檔の中から檢出した教王(皇)禁約と康熙諭旨との二通は、その原形の儘に覆刻されたが、その各一通が在北京の陳垣氏より吾が輩の手許に惠贈されたから、左に轉載して、わが學界に紹介する。教王禁約も康熙諭旨も所謂カトリック教の宗論(= Rites Controversy || Question des Rites)關係の史料として可なり珍重すべきものである。

カトリック教の宗論は支那傳道史上尤も注意す

べき事件の一で、前後百年以上も繼續した。その由來や事實は、事々しく記載するを要せぬが、史料紹介の順序として簡單に敘述すると、支那にジエズイット派の基礎を据えた有名な利瑪竇 Matteo Ricci は深く支那の國情を研究して、支那の如き古い文化を有する國では、その國情と一致するやうに布教することが成功の秘訣と考へ、支那人に對しては支那的耶蘇教を説く必要を認めた。彼はこの理由によつて、耶蘇教の God を天主とも稱

したが、同時に支那の經書にある天又は上帝といふ語も、*God* を代表し得るものと認め、又支那人が孔子を拜し、祖先を祭るは全く社會的政治的趣旨に本づくものであるから、排斥するを要せずと認められた。

所が利瑪竇の後を承けてジュエスイツト派の頭領となつた龍華民 *Longobardi* は、この點で頗る見解を異にした。彼は儒教は一般に物質的で無神的傾向を有するから、その謂ふ所の天又は上帝は、決して耶蘇教の *God* と同一視すべきでない。耶蘇教の *God* を代表するに、儒教の天又は上帝の語を使用するのは、誤解を生じ易くして有害である。又支那人が孔子及び祖先を祭るは一の迷信であるから、之は排斥せなければならぬ。耶蘇教は支那でも眞の耶蘇教として布教せなければならぬと主張した。この利瑪竇と龍華民との布教方法に關する見解の相違が、所謂宗論の出發點で、その

後久しく在支宣教師間の問題となつた。されどジュエスイツト派の宣教師の大多數は利瑪竇の見解を執り、この方針の下に布教を繼續したから、ジュエスイツト派のみ勢力を有した間は、格別の紛擾を見なかつたが、やがてカトリック教に屬するドミニック派その他の宣教師が支那に布教する者多きを加ふるに及んで、茲に激烈な宗論を惹き起した。

一六四五年(順治二年)にドミニック派の *Moralez* の申出により、羅馬教皇 *Innocent* 十世は、孔子を拜し祖先を祭る支那の儀式を排斥し、ジュエスイツト派の布教方法を否認する教令 (*Decree*) を發した之に對してジュエスイツト派の宣教師らは事件の真相を説明すべく、有名な *Martin Martini* 衛國臣を羅馬に派遣した。時の羅馬教皇 *Alexander* 七世は衛國臣の説明を聴き一六五六年(順治一三年)に此等の儀式を容認する教令を發した。かくて羅馬

教皇應の不統一は愈々この宗論を激烈にした。殊

に一六九三年(康熙三十二年)に當時在支那宣教師を  
監督すべき位置(Vicaire apostolique du Fou-Kien)

に在つて、熱心に儀式排斥を唱へた Maignot——  
康熙諭旨に閏當とあるのはこの人を指すかと想像  
されるが、Maignotを閏當と稱した所以は審でな  
い——が特使を歐洲にやり、羅馬教皇廳に問題の  
最後の解決を求めてから、一層宗論が喧しくなつ  
て來た。そこで當時の羅馬教皇 Innocent 十二世  
はこの宗論に最後の裁決を下すべく、一六九九年  
(康熙三十八年)に調査會を設置した。

この報知に接した在北京の重なるジェスイット  
派の宣教師達は連名で、康熙帝に宛て、支那に  
於ける孔子を拜し天及び祖先を祭る儀式の趣旨に  
關する伺ひの上書をした。この上書に對して康熙  
帝から、

(一)孔子を拜するのは、人の師範として尊敬す

るので、求福の意を含まぬ。

(二)祖先を祭るのは孝道が目的で、求福が目的  
でない。

(三)天又は上帝とは萬物の根源主宰を指し、祭  
天の禮もこの主宰を祭るものである。

と解釋するが允當であるといふ明答を得て、參考  
材料として之を羅馬の調査會に送附した。此等の  
儀式の意味が、宣教師間の問題となつて居るから  
ジェスイット派がこの點に就いて支那の國家を代  
表する最高主權者に解釋を求めたので、寧ろ適當  
な手段と認められるが、他の宗派の人々は、耶蘇  
教關係の宗教問題に、異宗教の君主をして容喙せ  
しめたものとして、ジェスイット派を攻撃し、さ  
ては調査會の感情をも悪化せしめた。調査會は一  
七〇四年(康熙四三年)十一月に儀式禁止を決議し  
教皇 Clement 十一世の承認を経た。Clement 教皇  
は七箇條より成る教令で、支那の信者に God は

必ず天主と稱すべく、天又は上帝と稱するを禁じ又孔子を拜し祖先を祭る儀式を禁止するのみでなく、かゝる儀式を行ふ場所に立ち寄ることすら禁止した。この教令は當時支那に派遣中の教皇の特派使節の手を経て公布されることになつた。

是より先き總主教 Tournon は Clement 教皇の特使として極東に向ひ、一七〇五年(康熙四十四年)に支那に到着し、その年の冬から翌年の夏にかけて、再三康熙帝に謁見を許されたが、拜孔祭祖等の儀式に關する雙方の意見の相違が明瞭となると康熙帝は彼に退京を命じた。かくて Tournon は一七〇六年の新八月に北京を發して歸國の途に就いた。彼は北京滞在中に Clement 教皇の儀式禁止の教令を接手したけれど、態ど之が發表を見合せ、北京退去後、一七〇七年の十一月に南京で、總主教の教書 Mandement の形式を以て儀式禁止を公布した。この行爲は康熙帝の逆鱗に觸れ、帝は備

葡萄牙官憲に命じて Tournon を澳門に禁錮せしめ、間もなく彼は一七一〇年に澳門禁錮中に病死した。

羅馬教皇 Clement 十一世は愈禁止教令を固執し一七一〇年に Tournon の公布した教書の正當なることを承認し、更に一七一五年(康熙五十四年)に Exilia die と稱せらるゝ教皇敕書(Bulle)を發布して、一七〇四年の禁止教令に忠順を誓ふ者でなければ支那に布教することを許可せぬことにした。

されど一方康熙帝の態度も愈強硬で、先づ支那の拜孔祭祖等の儀式を循奉する者に限り、内務府より票信を交付して布教に従事することを許すも然らざる宣教師は一律に退去を嚴命し、後ち更に一般的に耶蘇教を禁歴したから、Clement 教皇は更に第二回の特派使節として總主教 Mezzabarba を支那に派遣して、康熙帝にその緩和を懇請せしむることにした。Mezzabarba —— 支那の記録に

嘉樂とあるのは、彼の教名 Charles (Carolus) の音譯と想はれる——は一七二〇年(康熙五九年)の末に北京に到着して、康熙帝に拜謁を許された。今回發見の二史料は、何れもこの當時に關係ある文書である。

序ながら Mezzabarba の使命の結果を畧述すると、彼は北京に入つて、康熙帝の決意と支那教界の實況とを知ると、教皇の禁止教令を幾分緩和する必要を認め、彼が歐洲に歸航の間際に、一七二一年(康熙六〇年)の新十一月に、澳門で總主教の教書の形式で所謂八個條許容案を發布して、或る條件の下に、拜孔祭祖等の儀式を容認した。この教書は勿論問題を惹き起した。一七四二年七月に羅馬教皇 Benedict 十四世は Ex quo singulari と稱せらるゝ教皇敕書を發布し、Mezzabarba の教書を否認して、Clement 教皇の禁止教令の絶對的效力を決定した。かくて宗論も遂に終結した。

さて今回發見の二史料の一たる教王禁約は、上述の Ex illa die と稱せらるゝ教皇敕書の〔幾分抄略した〕漢譯で、多分 Mezzabarba が自身携帯した敕書を、北京で漢譯したものと想像される。書後の康熙帝の御批の内容が、西籍に傳へらるゝ Mezzabarba 奉呈文書に對する康熙帝の御批の内容と一致する點が、この推測の根據を與へる。康熙諭旨は康熙五十九年十一月十八日の日附の Mezzabarba が北京に到着した十一月二十七日に先づこと九日に當る。陳垣氏の推測せる如く、羅馬教皇使節の到着以前に、康熙帝が在北京の宣教師——主としてジェスイット派——を召見して、豫め儀式問題に關して該使節との應對につき注意を與へたものである。諭旨の原文に硃筆で親しく補正删除を加へられた——印刷の都合で、原文に删除を加へた箇處には□を施し、補正の硃筆は右側に細字添植した——のを觀ても、康熙帝がこの問題に

相當意を注がれて居つたことがわかる。

終に讀者の參考の爲に、この二文書中に記載された西洋人の漢譯名に洋原名を對照して置く。但匆率の際とて、倪天爵、安泰、徐茂盛の洋名を検出することが出來ぬ。識者の垂示によつて補足したいと思ふ(六月四日)

(一) 格勒門得 Clement X

(二) 阿勒桑多 Alexander VII

(三) 殷諾深爵 Innocent XII

(四) 多 羅 Tournon

(五) 嘉 樂 Mezzabarba

(六) 蘇 霖 Suarez

(七) 白 晉 Bouvet

(八) 巴多明 Parrenin

(九) 穆敬遠 Mourao

(十) 戴進賢 Kogler

(十一) 嚴嘉樂 Slaviczek

(十二) 麥大成 Cardoso

(十三) 倪天爵

(十四) 湯尙賢 Tartre

(十五) 雷孝思 Régis

(十六) 馮秉正 Mailla

(十七) 馬國賢 Ripa

(十八) 費 隱 Fridelli

(十九) 羅懷忠 Costa

(二十) 安 泰

(廿一) 徐茂盛

(廿二) 張安多 Magalhaes

(廿三) 殷弘緒 Dentrecolles

(一) 教 王 禁 約

教王第十一格勒門得傳爲永遠世世悉知之事。自從我作教王第一日以至今。我料理諸事雖多。至於衆西洋人在中國互相爭論。此係我第一件要緊事。在中國衆西洋人因看見中國有幾個字還有幾件禮。也

有說此有異端之事。也有說此無異端之事。因此爭論寄信與我彼此相告。要我自已決斷。我所定奪叫

官並新得進士新得舉人生員者。亦俱不許入孔子廟行禮。

他們衆西洋人一心一意。此一件事從先前在位教王

一凡入天主教之人。不許入祠堂行一切之禮。

第十二殷諾深爵料理起首。因他亡故此事到我跟前。我將兩邊所告言詞細細詳審後。于天主降生一千七百四十四年十一月二十日俱已定奪。開寫于後。

一凡入天主教之人。或在家裡或在墳上。或逢弔喪之事。俱不許行禮。或本教與別教之人若相會時。亦不許行此禮。因爲還是異端之事。再入天主教之人。或說我並不會行異端之事。我不過要報本的意思。我不求福亦不求免禍。雖有如此說話者亦不可。

一西洋地方稱呼天地萬物之主。用斗斯二字。此二字在中國用不成話。所以在中國之西洋人並入天主教之人。方用天主二字。已經日久。從今以後

一凡遇別教之人行此禮之時。入天主教之人。若要講究恐生是非。只好在旁邊站立還使得。

總不許用天主。亦不許用上帝字眼。只稱呼天地萬物之主。如敬天二字之扁。若未懸掛即不必懸掛。若已曾懸掛在天主堂內。即取下來不許懸掛。

一凡入天主教之人。不許依中國規矩留牌位在家。因有靈位神主等字眼。又指牌位上邊說有靈魂。要立牌位只許寫亡人名字。再牌位作法若無異端之事。如此留在家裡可也。但牌位旁邊應寫天主

一春秋二季祭孔子並祭祖宗之大禮。凡入教之人不許作主祭助祭之事。連入教之人亦不許在此處站立。因爲此與異端相同。

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

一凡入天主教之官員或進士舉人生員等。於每月初一日十五日。不許入孔子廟行禮。或有新上任之

端。或與異端亦毫不相似者。如齊家治國之道俱可  
遵行。今有可行與不可行之禮。俱由教王之使臣定  
奪。若教王之使臣不在中國。有主事之人同主教之  
人。即可定奪。有與天主教不相反者許行。相反者  
俱決斷不行。

天主降生一千七百十年九月二十五日以上禁止條約  
之禮屢次查明之後仍定奪。照此禁止條約遵行。再  
我差使臣多羅。於天主降生一千七百七年正月二十  
五日在中國亦如此定奪。照此禁止條約遵行。我所禁  
止之事如此而已。我教王自今以後不論你們大人小  
人之言語。我俱不聽信。於天主降生一千七百十年  
九月二十五日我已定奪主意諸事俱各完畢。還有人  
不肯順從。我聞得在中國西洋人。也有說我自己把

我發的票禁止不行。也有說此票不明。也有說此票  
之解說還未到中國。也有說於天主降生一千六百五  
十六年三月二十三日在位教王第七亞勒桑多准行此  
禁止條約之禮等語。以上之言我心甚是不悅。因此

我於天主降生一千七百一十五年三月十九日。又寫  
此禁止條約帶去申命。嚴示在中國之衆西洋人悉知  
即便遵行。如或不然。我依天主教之罰處之。自今  
以後凡西洋人在中國傳教。或再有往中國去傳教者。  
必然於未傳教之先。在天主臺前發誓謹守此禁止條  
約之禮。隨後即將發誓之音信。寄到羅瑪府來。

〔康熙御批〕

覽此告示。只可說得西洋人等小人。如何言得  
中國之大理。況西洋人等。無一人同漢書者。  
說言議論。令人可笑者多。今見來臣告示。竟  
是和尙道士。異端小教相同。此亂言者莫過如  
此。以後不必西洋人在中國行教。禁止可也。  
免得多事。

(二) 諭 西 洋 人

康熙五十九年十一月十八日

上召西洋人蘇霖、白晉、巴多明、穆敬遠、戴進賢  
嚴嘉樂、麥大成、倪天爵、湯尙賢、雷孝思、



馮秉正、馬國賢、費隱、羅懷忠、安泰、徐茂

盛、張安多、殷弘緒。至

乾清宮西暖閣

上面諭爾西洋人。自利瑪竇來中國。脩道二百餘年

並無邪亂。平安無事。不犯中國法度。爾等自西

洋航海。九萬里投來。情願效力。並非俘獲之人。朕

因軫念遠人。俯垂矜恤。以示中國之大。何所不容。使

爾等各獻微長。出入禁庭。曲賜優容。亦寓中外一家

之意。至於爾等行教。與中國毫無損益。即爾等去

留亦毫無關涉。嗣因多羅來時。誤聽教下閩當。不

通文理。妄誕之言。假如閩當若深通中國文理。亦

為可恕。伊不但不知文理。即字亦不識了。如何

講得中國理義。即如以天為物。不可敬天。此即大

不通之論。譬如上表章內稱

皇帝陛下又如過

御座無不趨踰起敬。總是敬君之心。隨處皆然。若以陛下為階下座位。為工匠所造。意忽可乎。

中國敬天亦是此意。若依閩當之論。必當呼天主之名。方是為敬。甚悖於中國敬天之意。據爾衆西

洋人修道。其意原為以靈魂。歸依天主。所以苦持終身。不過為靈魂永遠之事。其他無甚與義中

國供神主。乃是人子思念父母所。在譬如幼稚物類。其母若殞。亦必呼號數日。思其母也。況人為萬

物之靈。自然誠動於中。即爾等修道之人。倘父母有變。亦必哀慟。如置之不問。乃不如物類。又何

足與較量中國。敬孔子蓋因孔子以五常百行之大道。君臣父子之大倫。垂教萬世。使人尊君親上

作忠移孝。此至聖先師之所應尊敬也。爾西洋亦有聖人。因其行事可法。所以敬重。多羅閩當等

非蛙之見。何足言天。何知尊聖。前多羅來俱是聽

教下。無稽妄說賴以致顛倒是非。壞爾等事大今

爾教主。差使臣來京。請安謝恩。倘問及爾等。

行教之事。爾衆人公同答應。中國行教俱遵利瑪

竇規矩。

皇上深知歷有年所。況爾今來上表。請

皇上安。謝

皇上愛養西人之重恩。並無別事。汝若有言。汝當

啓奏。

皇上我等不能應對。爾等不可各出已見。妄自應

答。又以致紊亂爾等是非各宜凜遵。爲此特諭。欽此。

右教王禁約一道。康熙諭西洋人一道。現陳列於故宮博

物院文獻部之樂壽堂。爲中國傳教史上極有關係之史料。

先是天主教入中國。對於祀先敬孔二事。卽有爭論。龍

華民等以爲異端。利瑪竇等以爲非異端。其後二派訟於

羅馬教廷。一七〇四年教王格勒門第十一詢一派之議。

立禁約七條。並派主教多羅。使中國申明此旨。大爲康

熙帝所不悅。亦以不准傳教爲抵制。至是久居中國深通

漢學之西洋人。乃請教廷收回成命。一七一〇年復下部

議結果。仍維持原案。一七一五年亦派主教嘉樂。使中

國重申此項禁約。嘉樂以康熙五十九年十一月抵京。此

禁約卽嘉樂所携來之禁約譯本。此諭西洋人。卽康熙未

見嘉樂前。特召見在京西洋人。告以應對嘉樂之方法也。

禁約未有硃批。諭西洋人亦經硃筆刪改。此事西洋教史

言之甚詳。而中國記載則甚缺乏。得此可見當時中西思

想之不相容。而此二道公文適足爲兩方代表亦後世得失

之林也。禁約中教王亞勒桑多第七。以一六五五年卽

位。殷諾深爵第十二。以一六九一年卽位。格勒門第

十一。以一七〇〇年卽位。康熙諭中西洋人多供職內廷。

其白晉費隱雷孝思麥大成湯尙賢馮秉正等。則會派往各

省測繪輿圖。穆敬遠則雍正初與於阿其那塞思黑之難。

戴進賢則乾隆初與修靈臺儀象志。羅懷忠以謚名。馮秉

正殷弘緒有漢文著述多種。唯不可解者。硃筆中字句均

有譌誤。一似不甚經意者。然何以又保存至今也。

中華民國十四年十一月十八日 陳 垣跋